

# 公園緑地等を活用した読書活動の推進方策について

菊池 沙耶歌<sup>1)</sup>, 林 まゆみ<sup>2)</sup>

## Promotion of reading activities using parks and green spaces

Sayaka KIKUCHI<sup>1)</sup>, Mayumi HAYASHI<sup>2)</sup>

### 【Abstract】

Parks have various open spaces such as grassy areas and shady trees. These spaces are used for a variety of activities. On the other hand, parks are also expected to have the potential for static use, where people can enjoy their time and refresh their bodies and minds. We focused on reading activities as a program to generate such use in open spaces such as lawns and shaded areas. We divided the project into three phases and conducted practical trials. In addition, we explored the relationship between the library, the plaza and roads, and tried to find out what kind of measures would promote such activities. As a result, we found that the "Green Library" was better promoted in areas slightly off the park road, near the playground equipment, and on the grass. We also examined the effectiveness of reading to children and the presence of staff. The results of the study revealed more effective ways of introducing the "Green Library" and points to be noted for its promotion.

**Key words :** library, parks, reading, books

## 1. はじめに

### 1.1 背景

公園には、芝生地や緑陰地を始めとした多様な広場が存在する。これらは、人々の健康促進、レクリエーション空間の提供、都市環境の維持や改善、景観の向上、防災に役立つ等様々な機能を有している。中でもレクリエーション空間の提供について、広場は、軽運動や遊び、散策など動的なものを中心に活用されていることが多い。一方、広場の芝生地や緑陰地には、人々がその空間でゆったりと過ごし、その時間を楽しむ。心身のリフレッシュを図るといった静的な利用にも可能性があり、さらなる活用が期待される。

ここで、そのような利用を誘導するプログラムとして、読書が考えられる。芝生地や緑陰地での読書は、公園利用者にとって、快適な緑環境の中で心地よく過ごせること、そこから心身の健康を享受できること、屋外のフレッシュな環境が読者の五感を刺激し、より読書が進むこと等の効果等が期待される。また、公園での読書活動を展開していくことは、公園管理者にとって園内に文化的な空間を創り出し、公園の文化的イメージの発信につながることで、また、芝生地や緑陰地が有効活用

されることなどのメリットも想定される。

このような屋外読書に関する先行研究として、都市の緑地の重要性を示した（Chiesura 2003）や公共図書館における屋外スペースの利用実態（中澤・広田 2012）、都市公園の存在価値を向上させるための方策の研究（八島・大森2008）などが挙げられるが、公園の芝生地や緑陰地等広場での読書活動に関して、効果等の研究は十分になされていないという結果が報告されていた。

### 1.2 目的

上記を受け、本研究では、公園内の芝生地や緑陰地に潜在する読書活動等による利用を、読書空間の整備・運営によってどのように引き出すかを検証した。さらにそれらをより効果的・効率的に引き出すためにはどのような仕組みやプログラムが有効かを明らかにすることを目的とする。

## 2. 方法

### 2.1 公園内等の屋外読書活動の調査

国内外の屋外読書活動の先行事例を文献及びイン

1) ㈱住友林業緑化

2) 兵庫県立大学大学院緑環境マネジメント研究科/淡路景観園芸学校

表1 実践的調査対象公園（設置者は本文参照）

明石海峡公園	西神中央公園	明石公園
		
<b>有料</b> 広域公園	<b>無料</b> 地区公園	<b>無料</b> 広域公園
都市基幹公園	住区基幹公園	都市基幹公園

表2 実践的調査内容

場所	明石海峡公園	西神中央公園	明石公園
時期	6月<週末>	6月<週末>	10・11月<平日>
内容	本棚の設置 読み聞かせ	本棚の設置 読み聞かせ	本棚の設置 スタッフの有無

ターネット検索を用いて調査すると共に、神戸市東遊園地でのアウトドアライブラリー、京都御苑「母と子の森」の屋外本棚等の現地調査と管理者へのヒアリングを行った。

## 2.2 「グリーンライブラリー」の計画

公園の規模、立地、利用料の違い等から兵庫県内の国営明石海峡公園、兵庫県立明石公園、神戸市立西神中央公園を研究の対象フィールドとした。規模は、それぞれ40ヘクタール、55ヘクタール、16ヘクタールの面積となる。立地としては、中山間地、都市部、都市外縁部のバリエーションがある。利用料は、明石海峡公園が有料、その他は無料である。これらの違いから、タイプの異なる公園として位置づけることとなる。「グリーンライブラリー」（みどりのあるオープンスペースを活用した図書館的な利用として定義する）の実践的調査を行った（表-2）。

ここでは、2.1の調査結果を基に、屋外図書コーナーを園内の芝生地や緑陰地に設置し、本やビニールシートを貸し出し、読み聞かせを行った。曜日や時間、スタッフの有無、設置場所等、条件に差を付け、それぞれについて利用者の行動観察や滞在時間の記録、ヒアリング等を行い、グリーンライブラリーがどのような広場利用を誘発したか、またその利用を促進するためにはどのような実施方法が効果的か検証を行った。

### 2.2.1 実践的調査方法と内容

検証が可能な距離範囲にあり、様々なタイプの広場を有する公園として、上記の3公園をグリーンライブラリーの対象フィールドとし、それぞれにおいて、検証のための実践的調査を行った。本調査は、2018年に行った。まず、6月の週末3日間ずつに国営明石海峡公園と神戸市西神中央公園にて一段階目の実践的調査を行い、10月・11月の平日5日間に兵庫県立明石公園にて二段階目の実践的調査を行った（表2）。

6月の2公園での一段階目の実践的調査では、著者らスタッフが常駐して運営し、読み聞かせのプログラムを提供した。10月・11月の二段階目の実践的調査では、本棚を設置したりスタッフの配置の有無に差をつけたりして広場のタイプ別に観察を行った（表2）。

### 2.2.2 グリーンライブラリーの実施と対象地の設定

対象の3公園の中から、グリーンライブラリーの本棚設置場所として芝生地、緑陰地、50㎡程度のスペース等の条件を満たしている広場を選定した。さらに、それらの広場を公園における広場の位置、グラウンドの素材（芝生地、砂地）、園路からのアクセス、構成要素、周辺環境等の要素を基に、大きく5つのタイプに分類した（図1、表3）。

### 2.2.3 実践的調査の準備

簡単に持ち運んで移動することが可能であり、また、設置の際も重ねて簡易に組むことができるとして、本実践的調査では寄贈頂いた素麺箱6箱と作製した木箱2箱を本棚としてグリーンライブラリーのために用いた。購入物品は、レジャーシート（120cm×150cm）を6枚、本は淡路市立図書館、あかし市民図書館から団体貸し出しを受け約60冊用意した（図2、図3）。

タイプごとの、利用頻度と利用者の過ごし方、時間帯、読み聞かせの効果、ヒアリング結果、その他の事項として設え、出入口の確保、本棚、場の活性化等については参与観察を行った。

## 3. 結果及び考察

### 3.1 公園内等の屋外読書活動の調査

神戸市東遊園地で行われている「アウトドアライブラリー」は、「URBAN PICNIC」というパークマネジメントに関わる社会実験の一つのプログラムであり、一定期間を設け実施されている。ここでは、目的を持たずに公園を訪れた市民もゆっくりと公園で過ごせるよう市民から寄贈された本を公園に置いていた。責任者A氏によると、スタッフが常駐し会話が生まれることが次の滞在を連鎖的に呼び起こされることから、人と人をつなぐスタッフが常駐することについてその必要性が認識されているとのことだった。

京都御苑「母と子の森」に設置されている東屋型の本棚「森の文庫」は、4月から11月の期間で利用可能な常設の本棚である。環境省B氏によると、管理者は朝夕に本棚の鍵の開閉を行うのみで常駐はしていない。木製のテーブルとベンチが設えられており、植物や動物の図鑑、自然に関する絵本、紙芝居等を自由に読むことができる。親子以外にも様々な人が訪れているとのことだった。



図1 広場のタイプ<イメージ図

表3 活動対象地のタイプ一覧

	① 園路沿いの芝生地	② 園路よりやや内側	③ 遊具の付近	④ 東屋など建物の付近	⑤ 園内の奥まったところ
明石海峡公園	・藤棚周辺	・移ろいの庭 ・パームガーデン			・水の樹
西神中央公園	・駅へ続く芝生広場		・遊具付近の芝生広場	・東屋付近	
明石公園	・西芝生広場(低棚) ・西芝生広場(出入口)	・武蔵の庭(芝生地)	・子ども広場(出入口) ・子ども広場(中央)	・武蔵の庭(茶室)	・仲よし広場



図2 読み聞かせの様子

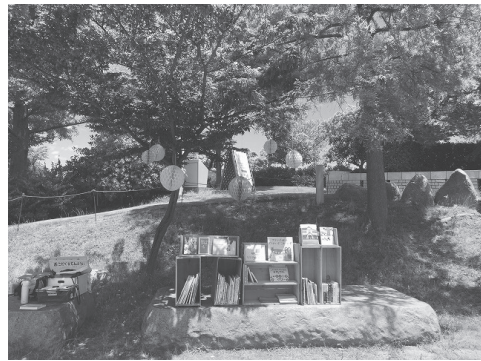


図3 本棚の設え

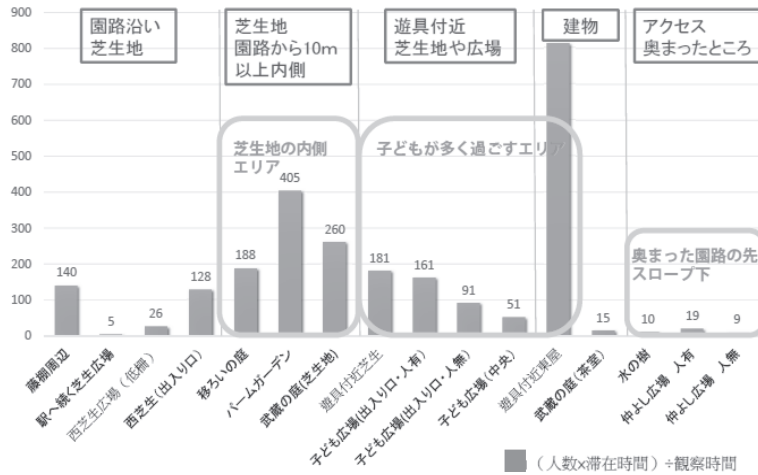


図4 対象地ごとの利用指数

### 3.2 グリーンライブラリーの実施

#### 3.2.1 利用頻度と利用者の過ごし方

図4に示すように、公園の5つの分類パターンによる、利用指数(利用人数×滞在時間÷観察時間とした)についての結果を述べる。

全体を通して、5つの分類から分析すると、一番利用が多いのは、芝生地で且つ園路から10m以上奥まった場所になる。次のグループは、子供が多く過ごす遊具付近、芝生や広場周辺と言える。園路沿いの芝生は、歩行者と近いためか、利用は少ない。また、奥まった園路の先なども利用しづらいと観察される。

これは、条件を絞りを、同時期に実施した同公園内毎に比較しても同じ結果であり、やはり利用が多いのは、園路からやや内側に入った芝生と遊具の付近で

あった。一方、奥まった園路の先の広場やスロープなどは落ち着いており、読書して過ごすのに快適な空間であると思われたが利用指数は低かった。

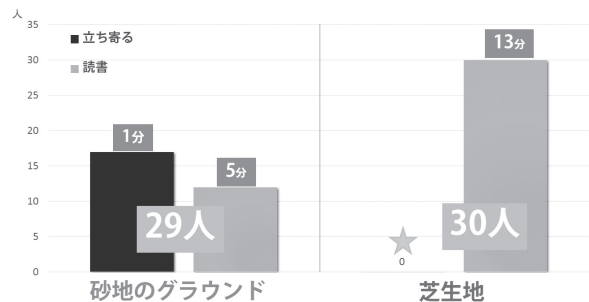


図5 地面の違いによる利用者数、滞在時間

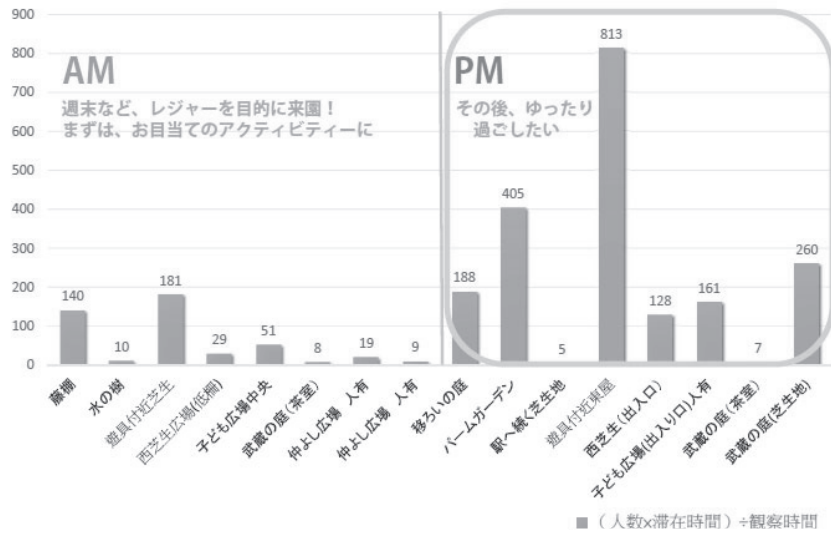


図6 午前と午後に分けた利用指数

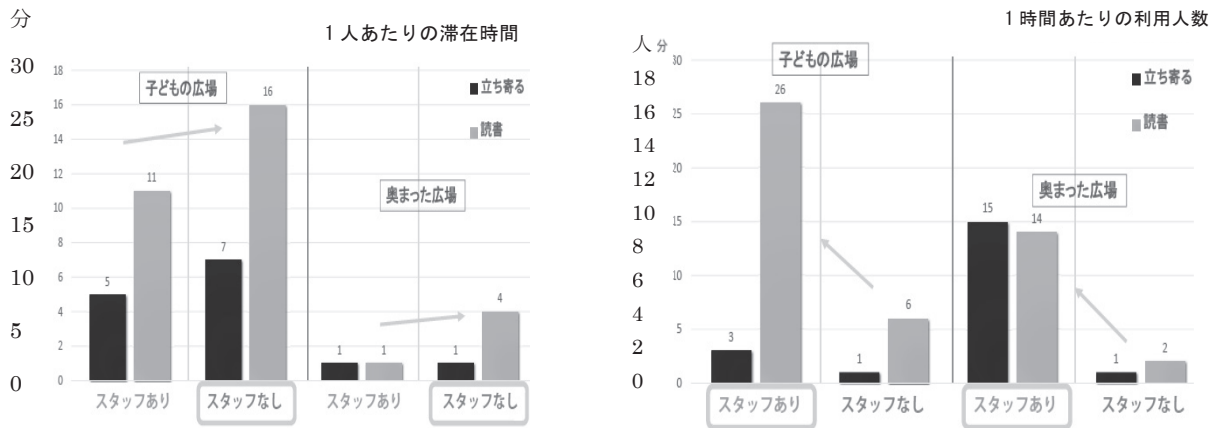


図7 スタッフの有無による利用人数 (A), 滞在時間 (B)

地面の素材(芝生地, 砂地)によっても, 滞在時間と利用者の過ごし方に違いが見られた。来訪者を観察して両者を比較すると, 1時間あたりの利用人数はほぼ等しい。しかし, 過ごし方は, 砂地のグラウンドでは滞在時間が1分という立ち寄りが半数以上であり, また, 読書の時間も5分間と短い。一方, 芝生地においては, 立ち寄りのみの訪問者は無く, 訪れた人の行動はみな読書に結び付いた。滞在時間の平均は13分間と長かった(図5)。

利用者の行動観察から, 幼児が1人では上手く図書をあつかえず, 直ぐに地面に落とすことが多かった。その際には, 保護者がサポートする形がしばしば見られた。また, そのような状態では, 図書に集中せず, 立ち去る例が多かった。

一方, 芝生地においては, 幼児が自ら本を手に取り, 芝生に腰を下ろして本を読む。保護者も本を選び, シートを広げて寛ぐ, という行動が度々見られた。芝生地では, 地面に本を置いても汚れることが少なく, 幼児でも本が扱いやすい。また, 幼児が自ら本を広げて

読むことができ, 母親も「時間的に」自由になり, 子どもに読んであげたい本や自分の読みたい本を選ぶ余裕が生まれることが分かった。ここから, 砂地より芝生地のグラウンドが読書活動により適していることが伺える。次いで, 利用指数(人数×滞在時間÷観察時間)が高かった遊具付近の広場では, 幼児とその保護者による利用が多く見られた。ここでも立ち寄りの人数は0人であり, 訪れた人の行動は, 読書か読み聞かせプログラムへの参加に結び付いた。

### 3.2.2 時間帯

午前と午後では, 利用頻度は午後の方が高くなることが分かった(図6)。参与観察の結果からも, 特に, 週末の有料公園を訪れる利用者は, まず目的とするアクティビティーを楽しみ, その後の活動としてグリーンライブラリーを利用する姿が多く見られた。

### 3.2.3 スタッフの有無: 利用人数と滞在時間

広場2ヶ所において, 管理スタッフの有無に差をつ

けてグリーンライブラリーを実施した。1時間あたりの利用人数の結果は2ヶ所ともスタッフ無しの方がやや多く、スタッフが常駐していなくてもグリーンライブラリーが十分に活用されることが分かった(図7A)。

一方、利用者の滞在時間については両広場ともスタッフが常駐している方が、滞在時間が長かった(図7B)。

管理者がいることで会話によるコミュニケーションが生まれ、滞在時間が延長する様子が見られた。

### 3.2.4 読み聞かせの効果

読み聞かせを行った2公園について、利用者の行動パターンを、関わり方の程度によって、①立ち寄るのみ、②読書をする、③読み聞かせのプログラムに参加する、④読み聞かせに参加し、さらに読書をする、の4つのパターンに分類し、集計を行った。明石海峡公園では、読み聞かせを行った後、さらに読書をした人は32分滞在した。つまり読み聞かせのみで立ち去った人より、11分多く滞在した。同様に西神中央公園でも32分余分に滞在した(図8)。

読み聞かせのイベントを行う事によって集まった利用者は、明石海峡公園において全体の50%、西神中央公園において82%となった。読み聞かせのイベントを行うことで、本棚を置いただけの時と比較し、利用者数が明石海峡公園で2倍に、西神中央公園では5倍となり、読み聞かせによる利用者数増加の効果が見られた。また、読み聞かせをきっかけにグリーンライブラリーを訪れ、その後、本棚の本を読み滞在時間が延長した層が、明石海峡公園で27%、西神中央公園では38%見られた。読み聞かせによる利用者数の増加に加え、本棚設置によって滞在時間が延長する層が生じる効果が見られた。

### 3.2.5 ヒアリング

グリーンライブラリー利用者からは「屋外で本が読めるのは新鮮」「とても心地のよい活動、兄はまだ遊んでいるが、弟はもう疲れてしまって本があってよかった」「遊んだら休憩させたいが、じっと過ごすのが苦手。絵本があると休憩も楽しく過ごせて有意義」「母親はただでさえ持ち物が多く普段本は持ち歩かないけれど、公園にあったら活用する」「子どもは図書館だといつも決まったシリーズを読みがち。こうやって選んで並べられていると、読書の幅が広がってよい」「いつもより長いお話も集中して読み聞かせを聞いていた」「公園での活動の幅が広がってよい」「新刊があるといい」「飲み物を一緒に提供してほしい」等、活動の意義を見出すことのできる声やニーズが聞かれた。

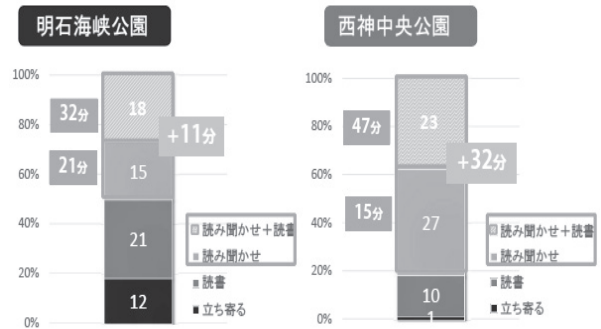


図8 読み聞かせによって延長した滞在時間

### 3.2.6 その他の事項

#### 3.2.6.1 設え(看板表示)

一段階目の実践的調査の際に用意した活動をアナウンスする看板は、活動名、日時、場所、イベント…と10行以上にわたり告知を表示していた。二段階目の実践的調査では、これを簡素化し「グリーンライブラリー」というタイトル、「無料図書コーナー」「ご自由にどうぞ」と3行のみを黒板に書き、設置した。スタッフを配置せず実践を行った場合もグリーンライブラリーは持ち帰りや汚れ等もなく、図書館的に活用されるという目的に合った使われ方をし、本やビニールシートの紛失もなかった。活動の目的を伝える看板表示は、簡易なもので十分に活動が可能である(図9)。

#### 3.2.6.2 本棚(蔵書の分類)

また、「読める本がない」という指摘は、蔵書があっても見つけにくい状況であったことが推察される。そこで、背表紙が幅広でタイトル表示が見やすいものを選書した。さらに、幼児や保護者の目に留まりやすいよう、本棚のディスプレイを活用し、その下段には関連図書を並べた。そうしたところ、幼児が自ら本を手にとって読み、また、2冊目、3冊目をディスプレイの下段から持って行く姿が見られるようになった(図10)。



図9 黒板表示



図10 本棚のディスプレイ

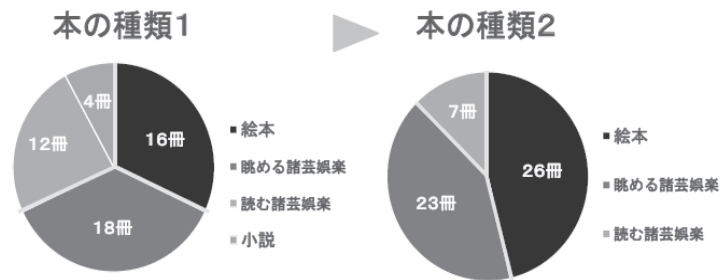


図11 利用者に合わせた蔵書の入替え



図12 低い柵に囲まれたグリーンライブラリーの空間利用

利用者層に合わせ、本のジャンルの蔵書量を調整した。本は、絵本、眺める諸芸娯楽、読む諸芸娯楽・小説、を3分の1ずつ用意し二段階目の実践的調査を行った。幼児を連れてきた利用者から「この子には読める本がないみたい」という声が聞かれた。3公園とも、幼児と保護者の利用が72%、95%、98%と高かったことを受け、実践の途中、「絵本」「眺める諸芸娯楽本」の冊数を増やし、本棚を入れ替えた(図11)。

### 3.2.6.3 出入口の確保

利用指数が低かった広場の特性の1つとして、低い柵に囲まれた空間が挙げられる。ベビーカーに子どもを乗せた来園者や高年世代の来園者も多く、たとえ低い柵でもそれをまたぎ越えて利用に訪れる姿は見られなかった。しかし、同じ広場において、低い柵が設けられていない出入口付近に本棚を移したところ、立ち寄りや読書の利用が見られるようになった(図12)。

### 3.2.6.4 場の活性化(コミュニケーションの場)

グリーンライブラリーを設置することにより、高年齢世代から管理者へ、また、絵本を読んでいる親子へ積極的にコミュニケーションを図る姿が見られた。母親の読み聞かせを一緒に聞いたり、次に読む本を手にとって薦めたりするなど、かかわる様子が見られた。

また、親子の集う芝生の広場においても、グループの異なる子どもや母親同士が交ざり合い、本を読んだり話をしたり、コミュニケーションが図られていた。このように、グリーンライブラリーでは、広場に本があることによって異世代間の交流、同世代間の交流が見られた。

## 4. まとめ

本実践的調査により、グリーンライブラリーは、公園の芝生地や緑陰地等の広場に滞在し、静かにゆったりと時間を過ごすという利用者の活動を誘発し、広場の有効活用を促進するという潜在的利用の可能性であるポテンシャルを引き出す効果があることが分かった。

しかし、その効果はどんな場所・時間等の条件でも一律に発揮されるのではなく、園路からやや内に入った芝生地や遊具付近の広場での利用頻度が高く、またその時間帯も午前より午後の方が高い。公園管理者がグリーンライブラリーによって公園広場の静的・文化的利用を促進させようとする場合、実際には本棚を常時設置することは困難であること、設置のコスト等も勘案する必要があることから、上記のような条件を踏まえて、設置、運営していくことが効果的であると考えられる。

奥まった園路の先にある広場など、これらの場所を有効活用するためには、広報の工夫などさらなる手立てが必要だと考えられる。さらに、その際には、スタッフの有無によって利用者の滞在時間が延長すること。さらに、読み聞かせのプログラムを導入することで、人的コストは上がるものの、利用者数が増加したり、本棚の本が併用され、滞在時間が延長する効果が見られたりする。

これらの点に留意しながら実施することが、その効果をさらに上げていくために有効である。

## 引用文献

Chiesura Anna (2003) The role of urban parks for the sustainable city. *Landscape and Urban Planning* 68, 129-138.

中澤梓・広田直行(2012) 千葉県の公共図書館における  
屋外スペースの利用実態. 日本大学産業工学部第45回  
学術講演会講演概要, 1113-1116.

八島雄士・大森哲朗(2008) 都市公園の存在価値を向上さ  
せるための方策の研究. 公園管理研究Vol. 2, 116-123.

